

## W T O 非農産品市場アクセス交渉会合の結果概要

### 1. 場 所

W T O 本部(スイス・ジュネーブ)

### 2. 日 時

平成 1 6 年 1 2 月 6 日 (月) ～ 8 日 (水)

### 3. 出席者

奥野漁政部参事官、経済産業省小川通商機構部長、鳩山参事官、外務省梨田国際貿易課長、財務省鶴田世界貿易機関専門官他

### 4. 議論の概要

#### (1) タリフピーク、高関税、タリフ・エスカレーション

インド等関税の高い国は、各国の平均関税率を基準として相対的に高い関税（各国のタリフピーク）や、加工度が上がるほど関税水準が上がる問題（タリフ・エスカレーション）を是正する必要性を強調し、各国の平均関税を基準として関税を引き下げる方式（ジラル方式）が良いと発言。これに対し、我が国を初めとする先進国等は、ジラル方式では、既に低関税となっている国にとって不公平であり、むしろ各国の絶対的な関税水準格差を是正することの重要性を指摘した。また、先進国等既に低関税となっている国は、スイス・フォーミュラのような関税削減方式によって、我が国が主張するように各国間の関税格差を是正するべきであるとした。

#### (2) 途上国の輸出関心品目

多くの国は、途上国が輸出している品目が多岐にわたっていることから、途上国輸出の将来の発展可能性も考えると、すべての品目が途上国の輸出関心品目であるとした。また、特惠マージン喪失の観点からの検討の必要性も指摘された。

#### (3) 分野別関税撤廃・調和における分野選択及び参加のあり方

米国がジラル前議長を示した 7 分野（水産物を含む）に言及したが、議論の流れは、関税削減方式決定後に自主的参加を前提に追加的に検討すべきとする途上国と、関税削減方式と分野別関税撤廃・調和を同時に検討していくべきとする先進国の対立に集中した。

#### (4) 非関税障壁

米国及びニュージーランドが、建築基準等を念頭に、林産物の非関税障壁について、分野別に議論するための提案を準備しているとの発言があった。また、電子産業分野の非関税障壁についても、分野別に議論すべきとの韓国提案が評価され、今後、加盟国主導で少数国の議論が行われることとなる見込み。

### 5. 会合の予定

2 0 0 5 年    1 月 3 1 日 ～ 2 月    4 日  
                  3 月 1 4 日 ～ 3 月 1 8 日